

堀病院 高気圧酸素治療を開始 突発性難聴の早期治療に

耳鼻咽喉科・内科・眼科の専門病院として、年間一五〇〇件以上の手術実績を誇る医療法人徹慈会 堀病院（福山市沖野上町三―四―一三、宇高毅理事長）Ⅱ写真上Ⅱはこのほど、突発性難聴に対応する「高気圧酸素治療」を開始した。

同治療を行うためのカプセル型の装置を導入したⅡ写真下Ⅱ。突発性難聴の治療用機器としては福山で初という。宇高理事長は「患者さんの利便性に配慮しつつ、地域医療に貢献したいと考えた」と話す。



突発性難聴はある日突然、片方の耳が聴こえなくなるなる症状で、原因は不明な場合がほとんど。発症から一カ月以内に治療しないと聴力が戻らないとされ、早期の治療が必要となる。

主な治療法は点滴やステロイドの投与が一般的で、これに補助治療を組み合わせる。高気圧酸素治療は純度の高い酸素を体内に吸入することで、酸素が行き渡りにくい細い血管などの低酸素状態を改善し、耳の機能を回復させる。補助治療の中でも効果が高いと評

価する専門家が多いという。

同治療では患者がカプセルに入った後、装置内の気圧を約一五分かけて二気圧まで上げ、その状態を約一時間維持。さらに一五分かけて元の気圧に戻す。治療中は専門の臨床工学技士が付き添う。治療が長時間になるため、同院では原則として入院患者を対象とする。

同院には年間一〇〇人以上が突発性難聴の治療に訪れる。原因不明なだけに「いろいろな治療の選択肢を用意しておく必要がある」と宇高理事長。これまで近隣には同治療を手

掛ける医療機関がなく、「わざわざ遠方まで通うと患者さんに負担を掛ける」として導入を決めた。

導入に当たっては増築や新たな人員の確保も行った。ニーズが高まれば装置を増やすことも視野に入れる。宇高理事長は「福山で効果的な治療が受けられることを知ってほしい」と話す。

診察時間は月―金曜が8時30分―12時と15―18時で、土曜午後と日曜・祝日は休診。

問 084・926・3387